

平成 31 年 3 月 8 日開催

## 平成 30 年度第 2 回上越市博物館協議会資料 (水族博物館)

平成 30 年度事業実施状況について	・・・・・・・・	1～ 6 ページ
平成 31 年度事業計画（案）について	・・・・・・・・	7～10 ページ

## 平成 30 年度 上越市立水族博物館 事業実施状況

### 1. 入館者状況について

単位：人

	6月	7月	8月	9月	上期計
総入館者数	18,490	157,748	195,433	95,874	467,545
有料入館者数	18,403	156,316	193,300	94,453	462,472
個人	9,828	86,053	108,426	52,886	257,193
団体	1,105	9,992	4,489	7,882	23,468
契約	1,697	32,001	63,486	19,059	116,243
年間パスポート	2,762	10,552	3,774	1,999	19,087
年間パスポート(2回以上)	3,011	17,718	13,125	12,627	46,481
無料入館者数	87	1,432	2,133	1,421	5,073

※上越市民プレミアムデー(6月21日から24日まで)入館者数を除く

※2月実績は速報値

	10月	11月	12月	1月	2月	下期計	合計
総入館者数	74,623	56,588	30,087	26,914	27,107	215,319	682,864
有料入館者数	73,253	55,744	29,581	26,375	26,627	211,580	674,052
個人	39,322	30,481	16,792	16,428	14,988	118,011	375,204
団体	14,274	8,964	1,566	200	1,256	26,260	49,728
契約	9,172	7,330	3,161	2,722	1,877	24,262	140,505
年間パスポート	1,168	635	543	547	530	3,423	22,510
年間パスポート(2回以上)	9,317	8,334	7,519	6,478	7,976	39,624	86,105
無料入館者数	1,370	844	506	539	480	3,739	8,812

### 2. 事業実施状況について

月	事業内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>開館に向け工事が完了した水槽から順次水づくり作業を行うとともに、物品類及び展示生物調達に向けての準備を進めた。</li> <li>直江津屋台会館での記者発表会、高田城 100 万人観桜会での新規開館に向けた P R を実施した。</li> <li>新潟県・長野県・富山県の旅行代理店に向け、セールス活動を実施した。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>各水槽の水づくり作業完了後、順次、展示生物の搬入を開始した。</li> <li>団体客の予約を開始するとともに、テレビコマーシャルの作成、取材の対応を進めた。</li> <li>新潟県・長野県・富山県の旅行代理店に向けてのセールス活動は、継続して実施した。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>グランドオープンに先立ち、6月19日から内覧会を実施し、6月21日から24日までの間、「上越市民プレミアムデー」を実施した。</li> <li>6月26日に開館式典・開館セレモニーを実施した後、同日 12:00 にグランドオープンし、施設運営を開始した。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>入館者が増加する中、安全・安心を第一に施設運営を行った。</li> <li>多客対応として、入館券購入者の熱中症等防止対策として、エントランスに日除けテントを設置した。</li> <li>開館時間や入館券販売窓口数、ドルフィンパフォーマンスの回数は入館者数予測に応じて変更し、混雑緩和に努めた。</li> <li>7月16日に累計入館者数 10 万人を達成した。</li> </ul>

8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営習熟により、入館券販売等についても迅速な対応が可能となり、待ち時間を短縮することができた。</li> <li>・館内の混雑緩和のため、瞬間滞留者数が 2,000 人を上回らないよう調整を行った。</li> <li>・お盆前に駐車場のオペレーションを見直したことで、周辺道路の渋滞は、最小限に抑えることができた。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者の減少にともないサービス体制の見直しを行い、サービス向上に努めた。</li> <li>・多客により劣化・損傷した箇所の修繕を行った。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月14日に累計入館者数 50 万人を達成し、記念セレモニーを実施した。</li> </ul> <p>※50 万人目の入館者は、家族で来館した妙高市在住の女兒</p>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月1日からドルフィンパフォーマンスを冬期バージョンに切り換え、2階イルカホールで観覧する水中パフォーマンス「ART OF DOLPHIN」として実施した。</li> <li>・11月3日、4日には、「上越市障がい者ウィーク」実施にあわせ、ドルフィンパフォーマンスをはじめ、館内各種プログラムにおいて手話通訳者を配置し、サービスの向上を図った。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月14日から 25 日まで、催事ホールにおいてクリスマス企画展を実施した。</li> <li>・12月28日から翌年 1 月 31 日まで、催事ホールにおいて年末年始企画展示を実施した。</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年末年始も休まずに開館した結果、正月三日でおよそ 6,000 人の来館があった。</li> <li>・1月1日から教育普及事業の一環として、館内バックヤードツアーを開始し、1月の参加者実績は 410 名であった。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月6日から 13 日まで、タッチプール・フィーディングプール周辺において、市内虫生岩戸の海岸に漂着したリュウグウノツカイ（体長約 5m）の展示を行った。</li> <li>・リュウグウノツカイの展示期間中の入館者数は、悪天候ではあるにもかかわらず 9,855 人であった。</li> <li>・2月16日から、催事ホールにて特別展「おとがたり～生きものたちが紡ぐ音～」を開催中である。</li> </ul>

### 3. 教育普及事業について

#### (1) 企画展の実施

企画名	期間	展示内容
クリスマス企画展	平成 30 年 12 月 14 日から平成 30 年 12 月 25 日まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「海の宝石」とも呼ばれるウミウシの仲間の展示及び名前や形態などクリスマスにちなんだ生物の展示を実施した。</li> <li>・展示水槽：2 本</li> <li>・展示生物：アオウミウシなどウミウシ類 5 種、クリスマスアンティアス、シロホシアカモエビ</li> </ul>
年末年始企画展	平成 30 年 12 月 28 日から平成 31 年 1 月 31 日まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年の干支であるイノシシにちなんだ生物の展示、及びサケの受精卵を「イクラ丼」に見立てた展示を実施した。</li> <li>・展示水槽：3 本</li> <li>・展示生物：イラ、キュウセン、シマイサキ（幼魚）、サケ（受精卵）</li> </ul>

<p>特別展 おとがたり ～生きものたちが紡ぐ音～</p>	<p>平成 31 年 2 月 16 日から平成 31 年 4 月 7 日まで</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水生生物が発する音に着目し、様々な生物が発する音とその理由や仕組みを生体・標本を用いて展示解説している。</li> <li>・音源に関わる資料提供は、国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所 赤松友成博士の協力を得ている。</li> <li>・展示水槽：7 本</li> <li>・展示生物：ホウボウ・カクレクマノミなど 10 種</li> <li>・その他：耳石標本・モニター展示など</li> </ul>
-----------------------------------	--	---

【実施状況】

○クリスマス企画展



レイアウト①



レイアウト②



シロホシアカモエビ

○正月企画展



レイアウト①



レイアウト②



イラ

○特別展 おとがたり ～生きものたちが紡ぐ音～



レイアウト①



レイアウト②



カクレクマノミ

(2) バックヤードツアーの実施

平成 31 年 1 月 1 日より飼育スタッフの案内により、来館者が施設裏側を見学できる「バックヤードツアー」を開始した。

- ・参加条件 小学 3 年生以上
- ・実施時間 1 回目：12：00  
2 回目：15：00
- ・所要時間 約 30 分間
- ・参加人数 10 人（最大 15 人）
- ・実施内容 学芸員又は飼育担当職員が水族博物館のバックヤードを案内しながら施設や設備について解説を行う。
- ・参加実績 1 月期：410 人  
2 月期：451 人



4. 情報発信について

開館直前から 1 月までの情報発信及び掲載状況は以下のとおり

月	TV	新聞	ラジオ	WEB	雑誌他	合計	内容
6月	36件	22件	11件	163件	16件	248件	新規開館情報
7月	8件	0件	0件	22件	11件	41件	新規開館情報・入館者数10万人達成
8月	0件	0件	0件	12件	3件	15件	新規開館情報
9月	0件	0件	0件	10件	4件	14件	同上
10月	2件	24件	3件	55件	5件	89件	入館者数50万人達成
11月	4件	10件	7件	1件	7件	29件	水中ドルフィンパフォーマンス「ART OF DOLPHIN」
12月	5件	16件	1件	2件	6件	30件	クリスマス企画展
1月	2件	2件	3件	7件	7件	21件	正月企画展及びバックヤードツアー
2月	3件	14件	2件	23件	3件	45件	正月企画展及びバックヤードツアー
合計	60件	88件	27件	295件	62件	532件	

10 月までを新規開館に伴う多客期間と設定し、新規開館に関連するもの以外の情報はあえて発信せず、新施設開館の周知およびブランド構築を図った。

開館多客期が終了した 11 月から、バンドウイルカの演習展示のリニューアル、企画展の実施など様々な情報を発信し、施設の可変性(いつ来ても新しい発見がある)をアピールし、リピーターの醸成を図った。

これにより、11月以降、リピーター(年間パスポート来館者)の実績が著しく増加したことから、満足度向上を図ることができたと考えている。

#### 5. 入館動向について

月	入館動向
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グランドオープン後、平日でも約1,500人、初めての週末となった6月30日には3,500人を超える来館があった。</li> <li>・年間パスポート購入者の割合が、非常に多かった。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平日、土休日問わず多くの来館があった。</li> <li>・グランドオープン後、初めての3連休となる7月14日から16日については、非常に多くの入館があり、中日である15日には入館者数が12,000人を超えた。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みに入り、入館者数はピークを迎え、8月の最大入館者数は12日の12,373名であった。</li> <li>・月を通じて多くの入館があったが、開館時及び午後のピークに加え、夕日テラスから日本海に沈む夕日を望むことを目的に、夕方にもう一度ピークが生じる当館独特の動向が見られた。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の夏休み期間中の繁忙のピークが過ぎたことで混雑は解消されたが、週末には多くの入館があり、3連休には入館待ちの状態も発生した。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体利用での入館者数がピークを迎え、最大で一日1,000人超の受け入れを行った。</li> <li>・10月14日(グランドオープン後111日)に、累計入館者50万人を達成した。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前月に引き続き、団体利用での入館者が非常に多かった。</li> <li>・バンドウイルカの演習展示のリニューアルによりリピーターの利用が増加した。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季に入り入館者数の落ち込みが懸念されたが、暖冬少雪の影響もあり、長野県方面の入館も落ち込みが少なかった。</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年末年始も休まずに開館した結果、3連休までの期間、多くの来館があった。</li> <li>・3連休以降は、寒さが本格化したこともあり一般来館者は減少することとなったが、年間パスポート利用者など、リピーターの利用が非常に多かった。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リュウグウノツカイの展示・特別展の効果に加え、月後半は比較的温暖であったこともあり、リピーターだけでなく一般来館者も増加した。</li> </ul>

7月から実施している入館者アンケートの集計結果から、入館の動向は以下のとおりであった。

単位：％

性別	男性	女性	合計
割合	40.9	59.1	100.0

単位：％

年齢層	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
割合	10.8	23.7	13.6	14.0	13.6	8.6	8.9	5.5	1.3	100.0

単位：％

属性	家族	友人	カップル	1人	合計
割合	67.5	15.2	13.0	4.3	100.0

単位：%

交通手段	自動車	バス	電車	自転車・徒歩	合計
割合	84.4	8.0	4.2	3.4	100.0

単位：%

居住地	上越	県内	長野	富山	その他	合計
割合	25.2	31.1	23.1	5.6	15.0	100.0

## 平成 31 年度 上越市立水族博物館 事業計画（案）

### 1. 基本方針

- ・自然保護、環境保全に貢献し、市民のための環境教育・生涯学習の拠点とする。
- ・生物を教育的配慮のもとに採集、飼育、研究、展示等を行い、適切に管理する。
- ・上越市の公の施設ということを念頭に、市民の皆さまの安全・安心を第一に考え、施設設備の適正な保守点検および清潔な管理をする。
- ・利用者が公平・平等に利用できるよう施設運営を行う。

等

### 2. 運営計画

#### (1) 運営期間の設定

想定する入館者数の季節変動に応じ、平成 31 年度については以下のとおり期間を設定し、運営計画を定める。

- ・通常期間 4月～6月、9月～10月、3月
- ・夏休み期間 7月・8月
- ・冬期間 11月～2月
- ・繁忙期間 ゴールデンウィーク期間（4月 27 日から 5月 6 日まで）  
お盆期間（8月 10 日から 8月 18 日まで）

#### (2) 開館日及び開館時間の設定

##### ア 開館日

原則として年中無休とし、定期的な休館日は設けない。ただし、施設メンテナンスのための休館は必要に応じて設定することとし、詳細については今後協議のうえ検討する。

##### イ 開館時間

条例に基づき、開館時間を入館者動向や展示効果の向上などを考慮した時間帯に設定する。

### 3. 展示計画

平成 30 年度の経験を踏まえ、展示内容の更なる魅力向上を図り、水生生物や自然環境に対する興味の誘引や理解の促進に努める。

#### (1) 魚類展示

展示コンセプトに基づき、各水槽の展示内容の充実に努めるとともに、新たな生物の展示に挑戦し、魅力の向上を図る。

##### ○新規展示を目指す生物

- ・マンボウ
- ・アカシュモクザメ
- ・スルメイカ、ケンサキイカなどのツツイカ類
- ・サケガシラなどの深海性魚類

## (2) 海獣類展示

演示展示をとおして、鯨類が高い知的能力や運動能力を有することを紹介する。なお、演示展示の内容を季節によって変更することで、鯨類に関するより多くの情報を発信する。

## (3) マゼランペンギン展示

マゼランペンギンの世界最大の繁殖地であるアルゼンチン共和国プンタトンボの自然環境を再現した展示空間や 100 羽を超える多数飼育の優位性をいかした情報発信を行い、同種に対する更なる興味や理解を促す。また、マゼランペンギンの保全のため、繁殖にも積極的に取り組む。

## 4. 教育普及事業について

入館者の学習欲求に応えるために、特別展示、ガイド、学習会などを実施し、学習メニューの充実と学習機会の増加を図るとともに、水生生物に関する情報を提供する施設として、生物と自然環境との相互保全の関係性を基に、環境教育や情操教育に取り組む。

また、小中学校と連携し、学芸員や飼育担当職員が教育的配慮のもとにガイド、職場体験、出張授業などを行い、水生生物や自然環境について学んでもらう。

### (1) 特別展等の実施

名称	概要
特別展	<ul style="list-style-type: none"><li>・催事ホールにおいて、特定のテーマに基づいた生体、標本、写真等資料の展示を行い、常設展示では伝えることが困難な情報を提供することにより、水生生物や自然環境について、より深く学んでもらう。</li><li>・年 3 回(初夏・秋・冬)実施予定</li></ul>
企画展	<ul style="list-style-type: none"><li>・館内各所において、季節や年中行事、催事、水生生物に関する自然界での出来事などをテーマとした生体、標本、写真等資料の展示を行い、水生生物と人間とのかかわりを学んでもらうほか、珍しい水生生物の来遊や捕獲などに関する情報を適時発信する。</li><li>・年間 4～5 回程度実施予定</li></ul>

### (2) 社会教育プログラム

名称	概要
バックヤードツアー	<ul style="list-style-type: none"><li>・学芸員又は飼育担当職員が水族博物館のバックヤードを案内しながら施設や設備について解説を行い、水族館の施設や設備に対する来館者の興味や知的好奇心に応えるとともに、自然環境を再現するための工夫や自然の仕組みの偉大さについて理解を促し、ひいては環境保全の重要性を啓発する。</li><li>・実施日：2 回/日</li><li>・所要時間：約 30 分</li><li>・対象：小学校 3 年生以上</li><li>・定員：1 回 10 人まで</li></ul>
夜間学習会	<ul style="list-style-type: none"><li>・学芸員や飼育担当職員の案内のもと、閉館後の作業の見学や消灯後の生物の観察などを行い、水族博物館の仕事や水生生物の夜間の生態に</li></ul>

	<p>ついて学んでもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日：夏休み期間中（2回）</li> <li>・対象：小学生以上</li> <li>・定員：1回20人まで</li> </ul>
自由研究支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水族博物館の飼育・展示生物や地域の自然を対象とした題材の見つけ方や研究の進め方などについて、学芸員又は飼育担当職員が相談を受け、研究に協力する。</li> <li>・実施日：夏休み期間中</li> <li>・対象：小学生</li> <li>・定員：10人まで</li> </ul>
参加型体験プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者を対象としたワークショップ（例：塩引鮭作り、ビーチコーミング等）を実施。水生生物や自然環境に対し、さらなる理解を促す。</li> <li>・実施日：夏休み、冬休み期間中</li> <li>・対象：小学生以上</li> <li>・定員：10～20人まで ※プログラムにより異なる。</li> </ul>

(3) 学校団体向けプログラム

名称	概要
バックヤードツアー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸員又は飼育担当職員が水族博物館のバックヤードを案内しながら、教育的配慮のもとに飼育・展示施設や設備について解説を行い、水生生物に対する更なる理解を促すことにより、理科教育や生物教育の充実に資する。</li> <li>・実施日：学校の長期休暇期間を除く平日</li> <li>・所要時間：約30分</li> <li>・対象：小学校3年生以上</li> <li>・定員：1団体20人まで（1日4団体まで受入可）</li> </ul>
館内ガイドツアー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸員又は飼育担当職員が教育的配慮のもとに実物資料である展示生物の生理や生態などについて解説を行い、水生生物に対する更なる理解を促すことにより、理科教育や生物教育の充実に資する。</li> <li>・実施日：学校の長期休暇期間を除く平日</li> <li>・所要時間：約30分</li> <li>・対象：小中学校全学年</li> <li>・定員：1団体30人まで（1日4団体まで受入可）</li> </ul>
レクチャー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イルカスタジアムにおいて水族館や水生生物に関する事項をテーマとした講義を行い、水生生物や自然環境への理解を促すことにより、理科教育や生物教育の充実に資する。</li> <li>・実施日：学校の長期休暇期間を除く平日</li> <li>・所要時間：最長1時間</li> <li>・対象：小学校3年生以上</li> <li>・定員：1団体400人まで（1日2団体まで）</li> </ul>

職業体験学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育担当職員又は運営担当職員の指導のもと、水族博物館の業務を実際に体験することで、水族博物館の実務や社会的役割などについて理解を促し、社会科教育や進路指導の充実に資する。</li> <li>・実施日：学校の長期休暇期間を除く平日 ※上越ゆめチャレンジ事業は長期休暇期間受入れ可</li> <li>・所要時間：約 8 時間</li> <li>・対象：上越市内小学校 5 年生以上</li> <li>・定員：1 日 6 人まで</li> </ul>
職業インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内各所において、実際に業務を行っている飼育担当職員や運営担当職員との質疑応答により、水族博物館の実務や社会的役割などについて理解を促し社会科教育や進路指導の充実に資する。</li> <li>・実施日：学校の長期休暇期間を除く平日</li> <li>・所要時間：最大 1 時間</li> <li>・対象：上越市内小学校 5 年生以上</li> <li>・定員：1 日 10 名まで</li> </ul>
出張授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸員や飼育担当職員が学校に出向き、標本や映像資料、活魚輸送車で運んだ生体資料などを教材とした、水族博物館ならではの授業を行う。</li> <li>・実施日：学校の長期休暇期間を除く平日</li> <li>・所要時間：約 45～90 分</li> <li>・対象：上越市内小学校 3 年生以上</li> </ul>
謙信 KIDS プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上越市内の小学生を対象とした海と水生生物に関する学習プログラムや、ワークショップを実施し、水生生物や自然環境に対する理解を促す。</li> <li>・実施時期：9 月、10 月、11 月 ※各月 1 日(日程調整中)</li> <li>・定員：20 人/回</li> </ul>

## 5. 地域活性化事業について

新施設の目標の一つである「まちを元気にする施設」を実現し、直江津地区をはじめとする上越市の活性化に貢献する。

### ○平成 31 年度実施予定の取り組み

- ・施設内での「まち」の情報の発信
- ・情報紙「うみがたり」の発行

平成 31 年 3 月 8 日開催

## 平成 30 年度第 2 回上越市博物館協議会資料 (歴史博物館)

平成 30 年度事業について	・・・・・・・・・・・・・・・・	1～6
平成 31 年度事業について	・・・・・・・・・・・・・・・・	7～8

## 平成 30 年度 上越市立歴史博物館事業実施状況

### 1 展覧会事業

展覧会名	会 期	内 容	入館者数
開館記念企画展 徳川四天王 —榊原康政の遺宝	7月21日(土) ～9月17日(月・祝) ※蓮祭り期間中無休 (57日間)	江戸時代後半130年にわたって高田藩主を勤めた大名榊原家の藩祖は、徳川四天王として知られる榊原康政である。市内に伝来する貴重な戦国武将の遺品を紹介することで、歴史博物館の開館に花を添えた。	目標： 15,000人 入館者数： 17,185人 満足度： 満足48% やや満足 48%
企画展Ⅰ 生誕150年記念企画展 川上善兵衛		川上善兵衛は明治元年生まれ。日本の風土にあったブドウ品種の作出に生涯を捧げ、そのブドウを使ったワイン醸造を地域の産業へと発展させた。善兵衛のブドウは日本中のワイン用ブドウ産地で栽培されている。川上善兵衛の人生とその業績を紹介した。	
戊辰戦争150年特別展 高田藩と戊辰戦争	10月6日(土) ～12月2日(日) (50日間)	江戸幕府の譜代大名である高田藩榊原家は、日本を二分した戊辰戦争にあたってその最前線に立たされることになった。大きな時代の変わり目に立ち、時勢に翻弄されながらも懸命に乗り越えようとする高田藩と地域の軌跡を、時系列を追いながら丁寧に紹介した。	目標： 7,000人 入館者数： 9,850人 満足度： 満足60% やや満足 40%
企画展Ⅱ 「探検！むかしのくらし」	平成31年 1月4日(土) ～3月24日(日) (68日間)	かつて私たちの生活に欠かすことのできなかった様々な道具を紹介し、人びとの知恵や工夫を学び、現在のくらしとの違いにも目を向ける場を提供した。 ※小学3年生の社会科学習に対応した内容	目標： 5,000人 入館者数： 6,567人 (3/6現在) 満足度： 満足64% やや満足 36%
<ul style="list-style-type: none"> <li>入館者年間目標 30,000人に対し総入館者数 35,645人 (内有料観覧者 10,592人、2/17現在)</li> <li>満足度目標：アンケート調査による通年の満足度 80%以上</li> </ul>			

## 2 教育普及事業

### (1) イベントの開催

#### ○記念講演会

催事名	日時・会場	内容	人数
戊辰戦争 150 年特別展 高田藩と戊辰戦争	日時：11 月 3 日 (土) 14:00～15:30 会場：オーレンプラ ザ研修室・会議室	演題 「戊辰内乱とそれぞれの選択」 講師 宮間純一氏 (中央大学文学部准教授) 定員 60 人	66 人

#### ○金谷山史跡巡り

催事名	日時・会場	内容	人数
戊辰戦争 150 年特別展 金谷山史跡巡り	日時：10 月 20 日 (土) 10:00～12:00 金谷山	案内：主任 (学芸員) 荒川 将 内容：高田藩士墓地/薩摩・長州藩墓地/会津墓 地/高田事件記念碑/日本スキー発祥記 念館ほか 定員：15 人	16 人

#### ○刊行物の発行

刊行物名	内容
生誕 150 年記念企画展 川上善兵衛	企画展の開催に合わせ、展示資料を中心に川上善兵衛の業績をまとめたパンフレットを制作。 ・規 格：A4 判、24 ページ ・部 数：1000 部 ・頒布価格：400 円
戊辰戦争 150 年特別展 高田藩と戊辰戦争	特別展図録として制作。 ・規 格：A4 判、56 ページ ・部 数：1000 部 ・頒布価格：1000 円
探検！むかしのくらし 探検ブック	3 年生の学習に合わせたワークシート「探検ぶっく」を制作。見学した 3 年生全員に無償配布。 ・規 格：A2 判 横折蛇腹折 16 面 ・部 数：2000 部 ・頒布価格：小学校 3 年生に対して無償配布

○展示解説会の実施

展覧会名	日時	参加者数
戊辰戦争 150 年特別展 高田藩と戊辰戦争	① 10 月 13 日 (土) 10:00~11:00	32 人
	② 11 月 17 日 (土) 10:00~11:00	36 人
常設展示「越後の都」	予約による団体解説を随時実施 (減免対象者・一般団体を含む)	62 件 約 1400 人

○小学校授業への対応

展覧会名	期日	学校数 (市内)	見学児童数 (市内)
企画展Ⅱ「探検！むかしのくらし」	平成 31 年 1 月 4 日 (金) ~3 月 24 日 (日)	45 校 (市内 41 校)	1,637 人 (市内 1,529 人)

○人権・同和問題研修

研修対象	期日	人数
館職員研修 (歴博・古径記念美術館・受付・カフェスタッフ)	7 月 9 日 (月) 7 月 10 日 (火)	歴博・古径美 16 人 受付職員 8 人 カフェスタッフ 5 人 計 29 人
〈学校教育課主催〉 小中学校及び教育委員会職員対象研修会 (学校管理職及び人権教育担当教諭、市教育委員会 職員・上越教育事務所職員)	7 月 6 日 (金) 7 月 9 日 (月) 7 月 12 日 (木) 8 月 20 日 (月) 8 月 21 日 (火) 8 月 22 日 (水)	計 156 人
〈学校教育課主催〉 上越地区公立高等学校校長	8 月 10 日 (金)	9 人
〈社会教育課主催〉 公民館主事研修会	8 月 6 日 (月)	28 人
外部からの依頼による研修会 (新潟市内の市民団体)	11 月 8 日 (木)	18 名

## (2) 出前講座・職員派遣等

講座名	期日	内容
〈職員派遣〉 新潟県生涯学習協会 企画講座 維新 150 年―幕末・維新 期の越後国諸藩の選択	5 月 15 日 (火)	演 題：高田藩と戊辰戦争 会 場：新潟国際大学新潟中央キャンパス 参加者：約 60 人
〈職員派遣〉 上越ケーブルビジョン 公開講座「戊辰戦争から 150 年」	8 月 22 日 (水)	演 題：高田藩と戊辰戦争 会 場：JCV 本社スタジオ 参加者：約 50 人
〈出前講座〉 西城二丁目町内会 敬老会	9 月 17 日 (月祝)	演 題：越後の都と徳川の城下町、 そして西城二丁目の界限 会 場：特別養護老人ホーム「さくら聖母の園」 参加者：約 20 名
〈出前講座〉 八千浦地区公民館 元気の出るふるさと講座	9 月 20 日 (木)	内 容：岡沢拠点収蔵施設見学 会 場：岡沢拠点収蔵施設 参加者：約 20 人
〈出前講座〉 高田地区公民館講座	9 月 26 日 (水) 10 月 9 日 (火)	演 題：Ⅰ 高田築城 Ⅱ 下級武士の生活 会 場：オーレンプラザ会議室 参加者：約 30 人
〈出前講座〉 上越市南地区町内会長連絡協議会 研修会	10 月 12 日 (金)	演 題：歴史博物館の開館について 会 場：オーレンプラザ ホール 参加者：約 100 人
〈職員派遣〉 旧高田藩和親会 郷土史フォーラム	10 月 28 日 (日)	テーマ：江戸時代、頸城野の農民の暮らし 会 場：高陽荘 報告者：清沢聰氏 パネリスト：花岡公貴 荒川将 参加者：約 100 人
〈職員派遣〉 新潟大学非常勤講師	10 月 31 日 (水) 11 月 7 日 (水) 11 月 14 日 (水)	演 題：近世越後諸地域の歴史と社会 会 場：新潟大学 参加者：約 100 人
〈職員派遣〉 郷土の偉人“前島密翁”を顕彰する会 『前島密 故郷との絆講演会』	12 月 1 日 (土)	演 題：「静岡時代の前島密」 会 場：上越市市民プラザ 参加者：73 人
〈出前講座〉 郷土史友の会おおがた 歴史講演会	2 月 3 日 (日)	演 題：「江戸時代後期才浜の漁業と北前船」 会 場：大潟区コミュニティープラザ 参加者：約 80 人
〈職員派遣〉 新潟市歴史博物館 館長講座「戊辰戦争と越後」	3 月 17 日 (日)	演 題：高田藩と戊辰戦争 会 場：新潟市歴史博物館 参加者：80 人 (予定)

(3) 博物館実習生の受入れ

改修工事及びオープン事業のため実施せず

3 調査研究事業

(1) 各区所蔵民俗資料調査

目標及び進行状況：合併前町村で収集され、各区で収蔵されてきた民俗資料を調査・整理し、資料台帳をそれぞれ作成した。これをもとに、資料の利活用を図るためにデータベース入力作業を実施。

平成 30 年度は三和区米と酒の謎蔵及び大島区大山広場民俗資料室の民俗資料を岡沢拠点収蔵施設へ移動して各区からの民俗資料の移動事業は終了。現在資料のクリーニング、再配架作業が進行中。

通常の民俗資料収集・整理、及び(2)民俗資料拠点収蔵施設整備事業へ移行している。

(2) 民俗資料拠点収蔵施設整備事業

目標及び進行状況：岡沢民俗資料拠点収蔵施設・黒岩民俗資料拠点収蔵施設の整備を行い、民俗資料の適正な保存環境を整え、民俗資料及び施設の管理運用を進める。

岡沢拠点収蔵施設の集密化を進め、黒岩拠点収蔵施設との統合ができないか検討を進める。

(3) 歴史・民俗資料収集

H30 年度寄贈件数 43 件 451 点

(3) 調査研究事業

・H30 特別展開催のための諸調査

国文学研究資料館

国立公文書館

・市内調査

愛宕神社調査

春日神社調査

戦時下の戦闘機献納にかかる記念プロペラに関する調査

総督官参謀高札（個人蔵）調査

希望館資料調査

公文書センター資料調査

高田図書館資料調査

## 平成31年度 上越市立歴史博物館事業計画（案）

### 1 展覧会事業

#### (1) 企画展

展覧会名	会 期	内 容	入館者数
《企画展Ⅰ》 「上越の寺社と徳川の城」	7月20日（土） ～10月20日（日） ※蓮祭り期間中無休	上越の寺社には、代々高田藩主の寄進した古文書や道具等が伝存する。とくに徳川一門であった松平忠輝、松平忠昌、松平光長時代の資料を集めた展覧会を行う。	目標： 9,000人
《企画展Ⅱ》 「探検！むかしの暮らし」	11月16日（土） ～3月8日（日）	小学校3年生のカリキュラムに対応した民俗資料展示。昭和から平成までの暮らしを紹介する。	目標： 7,000人
※上記企画展のほか、4月1日～6月30日の間「御所参内・聚楽第行幸図屏風」公開及び「榊原家寄贈資料小展示」を行う予定。 ※常設展示「越後の都」の展示資料の更新を年間3回程度実施する。 ※企画展以外の期間の入館者数を16,000人と計画。企画展と合わせて年間3万2000人を目標とする。			

### 2 教育普及活動

#### (1) イベントの開催

##### ○展示解説会の実施

展覧会名	日 時（予定）
《企画展Ⅰ》 「上越の寺社と徳川の城（仮称）」	展示解説会 ・8月10日（土） 10:00～11:00 ・9月7日（土） 10:00～11:00 ＊聴講料：無料（ただし、展覧会観覧料が必要）
《企画展Ⅱ》 「探検！むかしの暮らし」	展示解説会 小学校の希望に応じて実施

\*このほかに、団体等で依頼があった場合に随時展示解説を実施

\*年間を通じて、土日祝日、観桜会期間、蓮祭り期間について展示解説員を配置する。

(2) 博物館実習の受入れ（小林古径記念美術館との共同事業）

実習期間（案）	内 容（予定）
平成 31 年 8 月 6 日～10 日 〔5 日間 30 時間〕	学芸員資格取得希望者 4 人を受入れる。 〈主な内容〉・講義「学芸員の業務」「資料の保存」等 ・実習「資料の取り扱い」「資料の整理・台帳作成」等 *受講条件 上越市出身あるいは市内の大学に通う、博物館学芸員を志望する学生

3 調査研究事業

(1) 各区所蔵民俗資料調査

- ・三和区民俗資料のクリーニング・配架作業
- ・平成 27 年度以降新規受入れ資料の台帳化作業
- ・岡沢拠点収蔵施設のさらなる集密化作業

(2) 今後の展覧会計画及び収蔵資料に関わる調査

- ・榊原家史料の研究・調査
- ・平成 33 年度特別展にかかる予備調査
- ・スキー発祥記念館の移管に伴う、スキー資料等に関する調査
- ・戦時下の戦闘機献納にかかる記念プロペラに関する調査